

## IAUD Newsletter vol.16 第5号(2023年8月号)

1. IAUD創立20周年記念特集 未来への提言⑤久保理事特別寄稿……………1
2. 衣のUDPJ佃理事 消費科学エクスポジションアワード受賞報告……………7
3. 2023年度第2回IAUD定例セミナー開催のご案内……………10
4. IAUD国際UD研究講座2023受講生募集のお知らせ……………11
5. IAUD国際デザイン賞2023応募締切延長のご案内……………11
6. UD検定オンライン初級第30回及び中級第19回開催のご案内……………12
7. IAUD2023年8月の予定……………12



## インクルーシヴ社会の実現へ愚直に、ひたむきに

### IAUD創立20周年特集 未来への提言⑤久保理事特別寄稿



「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012in 福岡」  
京都工芸繊維大学久保研究室展示ブースでの久保理事(中央)と研究生

日本初のUD推進団体であるIAUDは、2023年11月28日で創立20周年を迎えます。これも、IAUDの創立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただきました会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

創立20周年を迎えるにあたり、2023年度のNewsletterでは「創立20周年記念特集 未来への提言」を連載しております。

5回目は、IAUD創立当初から活動にご参画いただいている久保雅義理事・標準化研究ワーキンググループ主査(京都工芸繊維大学名誉教授)による特別寄稿を掲載します。



久保理事

## 日本初のUD製品発売

かつて松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)で海外調理機器のデザイン開発や国内の家電・住宅設備機器のデザイン開発に携わっていた際、米国ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス教授が1980年代に提唱した「ユニバーサルデザイン(UD)」の考え方を知り、それ以降UDのことが気になっていました。

「UDを詳しく学び、UDを松下電器の製品開発の柱にしたい」と画策し、1990年から“お年寄りにもやさしい”製品として、温水洗浄便座、ガス調理器、電子レンジ、石油暖房機、ガス給湯器などのUD商品を発売しました。

UDのよさが認められ、これらの商品はヒットしました。さらに、デザインも評価され、1992年には「温水洗浄便座ビューティワレ」が、1994年には「ガステーブルビッグリル」が「グッドデザイン賞」を受賞しました。

また、厚生省補助金事業である「座って入浴するシャワーユニット“座シャワー”」を1995年に製品化したところ、1997年にはグッドデザイン・第1回ユニバーサルデザイン賞を受賞しました。

さらに、2000年には、「システムバス“ユニリッチ”」がUD配慮で評価され、グッドデザイン金賞を受賞しています。

時を同じくTOTO株式会社も1991年にシルバー研究室を立ち上げ、UDに取り組み始めました。小職の知る限り、日本ではこの2社が最初にUD製品を発売したと認識しています。これを契機に、多くの企業がUDに注目し始めました。



久保理事が担当した UD 配慮の家電商品  
写真左から温水洗浄便座とガステーブル、シャワーユニット、システムバス

## IAUD発足と企業のUD推進

2002年には、当時富士通株式会社社長だった山本卓眞氏のもとに、自動車や家電、住宅関連などの日本の中核企業でUDを志向する設計者やデザイナーが集い、横浜で「国際ユニバーサルデザイン会議2002」が開催され、翌年の2003年には任意団体としてIAUDが発足しました。

松下電器からは、当時専務取締役の戸田一雄氏を筆頭に、総合デザインセンターの細山雅一氏がIAUD関連業務に携わることになりました。

一方、小職は同社総合デザインセンター部長として、社内で生活者重視を基軸にした製品開発基盤の構築に尽力しました。

UD普及の事例としては、川原啓嗣IAUD専務理事をゲストスピーカーとしてお迎えし、当時のマルチメディア開発センター所長津賀一宏氏(現パナソニック会長)号令のもと、2001年に「第一回松下UD会議」を開催しました。

さらに、松下電器基本規程を改訂し、UD配慮を製品開発の基本要件と位置付けるようになりました。以降、全社を代表する製品には、圧倒的なUD配慮が課せられるようになりました。

また、当時の松下電器は未曾有の経営危機で全社デザイン部門のリストラに直面しており、部門責任者として対応を迫られました。そこで、事業部門とカンパニー(社内分社)に分散していたデザイナーを束ね、2002年、社内に「パナソニックデザイン社」を設立し、デザインで自立できるマネジメントを模索しました。

自ら会社を興しマネジメントを整え、カンパニー構成員が自立できるように奮闘し、ほとんど眠れない一年となりましたが、結果としてデザインカンパニーの自立とデザインのめざす生活者本位の製品開発基盤が整いました。

さらに、2003年には、松下電器・Panasonic・Nationalという3つのブランド名を「Panasonic」へ統一する業務を担当しました。小職は、松下電器にブランディング概念を初めて導入し、改変したと自負しています。

ブランド名を「Panasonic」に統一したきっかけは、あるセミナーで大手ブランディング会社ランドーアソシエイツのトップと遭遇し、「松下電器・Panasonic・Nationalの3ブランドをハンドルすることは、企業価値を高めるうえで大きい障壁」との示唆を受けたことでした。そこで、社内の経営企画、広報、宣伝とデザインの有志でブランド価値向上のための企業ブランド戦略を検討し始めました。

統一ブランドに至る行程は長かったのですが、UDを松下電器全体の製品開発基本要件にまとめ上げた経験があったので、ブランド統一もうまくまとめ上げられたと思っています。

デザインカンパニーの経営が整い軌道に乗ってきたので、生活者本位のデザインと地域に寄り添うブランディング、SDGsなどを研究者として学びなおすため、2004年に京都工芸繊維大学大学院教授に転職しました。

## IAUD国際会議へ毎回参加

「第2回国際ユニヴァーサルデザイン会議2006 in京都」は、故寛仁親王殿下のご提案で小職の職場である京都市での開催となりました。

とても嬉しい反面、会場である国立京都国際会館までのアクセスの悪さや館内にある段差の多さなど、多くの課題が気になりました。そこで、久保研究室で京都駅新幹線ホームから京都国際会館までを実際に車椅子で移動して調査したところ、あまりのアクセスの悪さに仰天し、改善アクセスをビジュアルにしてIAUDに送付しました。

2005年には、国際会議開催へ向けてのイベント

「IAUD公開フォーラム2005～伝統文化と暮らしのUD」が京都工芸繊維大学で開催され、大ホールが満員となる大盛況なイベントとなりました。

当時の学長江島義道氏がIAUDを高く評価しており、公開フォーラムとその後の国際会議への参加と、多くのサポートをしてくれました。



IAUD 公開フォーラム 2005 に登壇する久保理事(写真右)

「第2回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2006in京都」は、10月22日から26日までの5日間開催され、世界29カ国から約14,700名が来場しました。

期間中、小職は併設展示会において市民や障害者、子供など各種団体がUD活動を発信する「京都コーナー」を担当しました。

また、展示会場での市民参加イベントコーナーでは、コンサートやNPO活動報告、株式会社ワコールや総合デザイン事務所GK京都などの京都市内の企業報告、子供UDワークショップ、さらには久保研究室生の発表など、多彩な内容を市民と共有しました。

それ以降、2010年の浜松、2012年の福岡、2014年の福島&東京、2016年の名古屋など、IAUDの国際会議には毎回、久保研究室は展示ブースを出展し、研究生全員が参加しています。

研究生が中心となってブースを設置したり、展示会場でUD疑似体験を担当したりと、国際会議でのいろいろな活動が思い起こされます。この経験は、研究生のUDに関する学びの深化とイベントへの理解などの教育効果があり、2年次後半ゼミ分けの際には、国際会議への参加が久保研究室希望の一因にもなっていました。



第2回国際 UD 会議2006in 京都の様子



第5回国際 UD 会議2014in 福島&東京  
展示ブースでの久保理事(写真左)と研究生

## 標準化研究WGで多様なUDに触れる

2006年からは、IAUD研究部会の標準化研究ワーキンググループ(以下標準化研究WG)に参加しています。

標準化研究WGでは、IAUD・UDマトリックス※1の作成や東日本復興支援プロジェクト、体験型こどもUD教育プログラム※2など、個人ではなかなか関わることのできない研究に携わることができました。

また、標準化研究WGのメンバーには、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、富士通株式会社、日本電気株式会社、三菱電機株式会社、株式会社東芝、富士フイルム株式会社、セイコーエプソン株式会社、株式会社リコーや古巣であるパナソニック株式会社など、世界を牽引する技術者やデザイナーが参加しており、彼らと月に一度ディスカッションすることはとても有意義な経験となりました。

さらに、宿泊合宿や視察などもあり、外から見たらカルテルもどきと言われかねないグループ学習となりました。

標準化研究WGでは、幅広い分野での専門家に多く出会えることがよい刺激となっており、ライバル企業でも共創と競争は共存するのだと確信しました。

小職は経済産業省による多企業を巻き込んだ国家プロジェクトなどもプロデュースしましたが、標準化研究WGほど深く探索はできませんでした。



標準化研究 WG 会合の様子

また、IAUD・UDマトリックスや体験型こどもUD教育プログラムの学会発表など、標準化研究WG活動を通じてIAUDの活動成果の一端を担うことができたと自負しています。

※1「IAUD・UDマトリックス」詳細は[こちら](#)をご覧ください。

※2「体験型こどもUD教育プログラム」詳細を掲載したNewsletterは[こちら](#)をご覧ください。

## これからは社会課題解決のUD

IAUDへの参加企業の変遷やパンデミックによる環境の変化、UDに期待される次代のミッションから推察すると、IAUDの活動主軸も変革が求められています。これまでのものづくりや空間設計の課題から、SDGsなどの社会課題の解決への対応能力が必要となっています。

さらに、IAUDが今後取り組んでいこうとしている高度リカレント教育(社会人の学び直し)である「国際UD研究講座」や、また国際への広がりも求められるようになってきています。

高等教育にかかわってきた経験からすると、今後のUDに関しては、英国ロンドンにある「英国王立芸術学院(RCA)ヘレンハムリンセンター」の取り組みが注目に値します。

2010年に同センターを訪問した際、PBL(Project Based Learning:課題解決型学習)成果報告会に参加しました。プロジェクトのテーマは「認知症」です。現在もデザインと高齢化を研究しているRCAのDesign Age Instituteを通して、AgeingやWell Beingに関するPBLが多いそうです。

2013年に訪問した米国ポートランドのデザインコンサルタント会社「Ziba Design」でも、企業からのWell BeingやHealth Careに関するプロジェクトが大半を占めており、日本のクライアントはオムロンヘルスケアでした。

久保研究室は2014年に京都工芸繊維大学スーパーグローバル研究室に採択され、研究室生全員に短期から1、2年の国際留学を課しています。受け入れ先は、米国ノースカロライナ州立大学、英国のシェフィールド・ハラム大学、オランダのデルフト工科大学の各デザインコースで、短期プロジェクトへの参加や聴講、教授研究室でのサポートなどを行いました。

各大学に共通して、Well BeingとHealth Careのプロジェクトが多く、医学などとも関わる大学もありました。

また、久保研究室には、タイのチュラロンコン大学からは地域振興、米国のアリゾナ州立大学からはユニバーサルツーリズムをそれぞれ研究プロジェクトとして、学生を受け入れました。

このような国際交流で気づいたことは、自動車や家電、住宅などのUDは企業の責任で行うものだが、国際学会などでの研究テーマとしては、健康や高齢化、少子化などの課題に対し、いかに取り組んで豊かに過ごしていくか、さらに農業や観光も含む地域振興など持続可能な社会にどう向き合うか、などが増えてきていると感じました。



久保研究室京町家キャンパスでRCA関係者を迎える久保理事(写真左から2人目)



アリゾナ州立大学と京都市内でのフィールドワークの様子

## UDでインクルーシヴ社会を実現

2023年6月に東京・豊洲で開催された「日本デザイン学会 第70回春季研究発表大会」に参加し、ユニヴァーサルツーリズムに関する研究発表を行いました。

全体を俯瞰してみても、この20年で学会発表内容が著しく変わっており、情報デザインや地域振興デザインが増加し、形や色に関する研究は少なくなってきました。

また、「グッドデザイン賞」をみても、近年ではコミュニティデザインや社会課題解決へのデザインが多く受賞しており、かつて小職が選考委員を担当した2000年代に受賞していた自動車や家電などはあまり見かけなくなってきました。

例えば、全国のローカルバスは最近ではコミュニティバスになっており、利用者が隣の市町に行けない地方がどんどん出てきています。テレビ放送のバラエティ番組も、ローカル路線バスの乗り継ぎが難しくなり、番組が立ち行かなくなったそうです。そんな中、株式会社ナビタイムジャパンが2018年にグッドデザイン賞を受賞した「バスNAVITIMEーバス時刻表・乗り換え・接近情報」は、路線バスやコミュニティバスの時刻表をNAVITIMEがスマートフォンアプリケーションとして公開したものです。

どんな人でも豊かに幸せに暮らせるよう、UD対象は変化していくことが必須となりました。UDの領域は、これまでももましてインクルーシヴ社会を実現するための課題解決を対象にすることが望まれています。



第7回国際UD会議2019inバンコクで講演する久保理事

## UDから学ぶIAUD国際UD研究講座

IAUDは、「UDの更なる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献し、人類全体の福祉向上に寄与する」という基本理念に従いながら、時代の要請を力強く受け止め、安寧な社会の実現に向けて活動テーマの精査やこれまでの成果の検証などにもう少し時間をかけて論議する時期かと考えます。

そのためにも、より研究教育的な事業として新たに国際ユニヴァーサル研究学院を設置し、リカレント講義である「IAUD国際UD研究講座」を10月に開講して、“UDを学ぶ”から“UDから学ぶ”ことに取り組むのはよい契機となるでしょう。

東日本大震災やパンデミック、ウクライナ侵攻など、予期せぬ不幸な事件は度々発生し、対応の困難な弱者は取り残される可能性が高く、さらに少子化や高齢化、情報化など社会の急速な変化に伴う歪みが、国際政治の対立なども相まって増幅されがちです。

IAUDには、発信する規模や強度を追求するよりは、社会課題に真摯に向き合い、インクルーシヴ社会実現に向けて愚直に、ひたむきに取り組むことが望まれると思います。

最後に、IAUD 創立20周年を心よりお祝い申し上げます。20周年に際し、IAUDはこれまでを振り返り、次代を俯瞰して発足時の力強い熱量を再び呼び起こし、豊かで幸せな社会の醸成に努めていくべきと感じました。

小職は浅学菲才ではありますが、今後とも尽力してまいります。

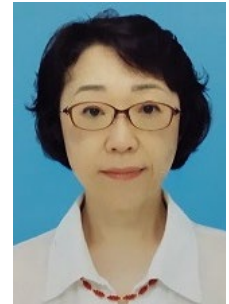


## 様々な事象をUD視点で思考する取り組みが表彰 衣のUDPJ佺理事 消費科学エクスポジションアワード受賞報告

衣のUDプロジェクトメンバーの佺由紀子理事(NPO法人ユニバーサルファッション協会副理事長)が、同プロジェクトの活動や今後の展望について執筆した寄稿「衣服のUDに関する取り組み」が、2023年5月に「2022年度消費科学エクスポジションアワード」(一般社団法人日本繊維製品消費科学会主催)を受賞しました。

寄稿では、同プロジェクトのUD視点で思考する取り組みが、消費者の豊かな生活や生産者の社会的意義に寄与しており、さらに今後取り組むべきUDに関する課題を提示しているとして、高い評価を受けました。

今号のNewsletterでは、受賞に寄せて佺理事が報告します。



佺理事

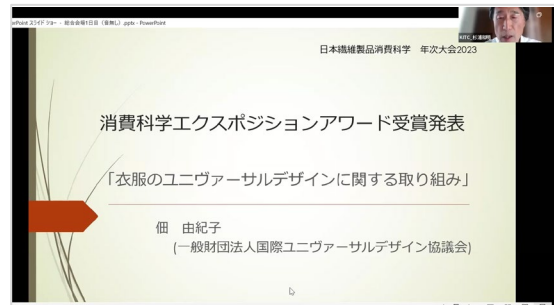
### 衣服のUDプロジェクト15年間の活動報告

2022年2月、日本繊維製品消費科学会学会誌編集委員会からIAUDに対し、UD視点での繊維製品の開発動向や、衣のUDプロジェクトの活動や取り組み事例などについて、学会誌上の解説シリーズ「高齢者が作りだす新しい消費市場」への寄稿依頼がありました。

IAUD事務局よりその連絡を受け、「これまでの同プロジェクトの活動を報告することで、衣服のUDに関する取り組みが、世の中に広がる機会となる」ことを期待し、担当することにしました。

寄稿は「衣服のUDに関する取り組み」と題し、2008年から2022年までの同プロジェクトの主な活動内容と今後の展望について報告しました。

そして2023年5月に、同会より「2022年度消費科学エクスポジションアワード」受賞の連絡があり、6月24日(土)に開催された同会2023年次大会での表彰式で、寄稿に関して講演しました。



オンラインで開催された表彰式の様子

### UDに関する課題の提示にも有効と高評価

同学会誌では、繊維製品消費科学に関わる研究や実践を、「報文」「研究速報」「資料」「技術レポート」「解説」の5つに分類して掲載しています。その中で「解説」は、消費科学に関する幅広い領域から、現代社会において関心が高く萌芽的なテーマをわかりやすく説明しており、社会的意義と柔軟な着眼点から、読み手に次の行動や創造へと促すヒントやアイデアを与える役割と位置付けられています。

そして、「解説」における研究の理解と発展を期するために、社会的意義と優れた着眼点を持つ寄稿を表彰しています。

「解説」における社会的意義とは、消費者の豊かな生活に寄与する視点と生産者の技術向上に寄与する視点があること、また、優れた着眼点とは既成概念に捉われない柔軟な考え方であるとし、これらの評価基準をもとに解説賞選考委員会で選考して、毎年の同学会年次大会で表彰式が行われています。

なお、「解説」賞は、「執筆に関してその意味や目的を明確にすること」「情報の伝達を目的として記述された内容」であることから、「エクスポジションアワード」と命名されています。

寄稿「衣服のUDに関する取り組み」は、2022年度に発表された53本の「解説」への寄稿の中から選出されました。衣のUDプロジェクトの15年間の活動成果が選ばれたことは、大きな喜びです。

同学会からの「受賞のお知らせ」にあった文章を掲載します。

(一社)国際ユニヴァーサルデザイン協議会の活動の内、2006年に発足の「衣のUDプロジェクト」における十数年にわたる活動内容が紹介されている。東日本大震災の経験から「災害時にも役立つユニバーサルジャケット」の開発事例ならびに「衣のUDを身近なものにするための取り組みをはじめ、講演会やその場での体験活動等を通して、様々な事象をUDの視点で思考する取り組みは、本賞の推薦基準とする②の消費者の豊かな生活と安全・知識の向上に寄与する視点、ならびに③の生産者の技術・製品・社会的意義に寄与する視点を満たしているだけでなく、本学会が取り組むべきUDに関する課題の提示にも有効であることから解説賞に相応しいと考える。よって第5回消費科学エクスポジションアワードを贈賞する。

このように、繊維製品や衣服に対し、「本学会が取り組むべきUDに関する課題の提示にも有効である」と評価いただけたのは、何より嬉しいことでした。



表彰状と受賞トロフィー

## 活動コンセプト「その機能は美しいか」

衣のUDプロジェクトでは、2008年から「その機能は美しいか」というコンセプトを掲げ、機能性と美しさの両立を目指して衣服の開発を進めてきました。

その後、2011年の東日本大震災を経て、「災害と衣服」に関する研究を開始すると共に、衣服のUDを広く人々に知って頂くことを目的として活動しています。

例えば、テーマ「日常の衣服のUDを考える」「災害時に必要な衣」で、多様なニーズをもつ人を対象にしたワークショップの開催や、「視覚障害と衣服の色」「身体機能・障害とロボティクス・ウェアラブルの可能性」に関わる研究者を招いての勉強会などを実施しています。

また、「自分と衣服の関係」について、年少者や文化背景が異なる人にも分かりやすく、考える機会となることを目的とした冊子「衣・着るI♡KIRU」を3シリーズ作成するなど、様々な取り組みを行ってきました。

今回の寄稿執筆により、これまでの15年間の活動を改めてまとめることができました。



ワークショップ「災害時に必要な衣の要素の抽出」(2012年、東京)

## UD視点で衣服を考える

2011年に東日本大震災を経験し、2015年には国際連合総会でSDGs(2030年までに達成すべき持続可能な17の開発目標)が採択されました。衣のUDプロジェクトはこれら



の体験やグローバルな視点を得て、災害や17の目標を研究のベースに活動を続けています。

UD視点を持って衣服について考えるとき、「個々の人を知ること」「進化し続ける素材や道具を知ること」「環境の変化について学び続けること」の3点が非常に重要だと考えています。

「個々の人を知ること」とは、「個人」の現実、例えばライフスタイルや日常生活動作、手段的日常生活動作などに目を向けることです。それにより、これまで見逃していた事象を発見することができると思っています。

「進化し続ける素材や道具を知ること」とは、日々進化する技術に触れ、使用体験を通して学びと気づきを得ることです。その新しい素材や道具を利用し、応用することによって、これまで問題だと捉えていたことが解決する可能性があると思っています。

「環境の変化について学び続けること」とは、気象の変化、身近な事故や災害、広域な自然災害や人災などについて、過去の事例を通して学ぶことです。そこから得られた知見を、これからのもの作りに活かすためです。

人も、技術も、環境も、意識も、常に変化しています。UD視点に立ったもの作りはスパイラルアップし、今後も進化し続けるものと考えています。衣のUDプロジェクトが過去に制作した災害時にも役立つ「UDジャケット」や、冊子「衣・着るI♡KIRU」などを、もの作りの進化の過程の一つの材料として、各方面で活用いただければ幸いです。



災害時にも役立つ「UDジャケット」と冊子「衣・着る I♡KIRU」3シリーズ

## 誰もが着る喜び、生きる喜びを実感できる社会づくりへ

衣のUDプロジェクトは、今後も「その機能は、美しいか」と問いかけつつ、「日常と非日常は、つながっている」ことを肝に銘じながら、「物心両面に働きかける衣服とテキスト開発」「すでにある様々な衣服に関する事象をUD視点で解説」などの活動を続けていきます。

そして、これらすべての活動が、誰もが着る喜び、生きる喜びを実感できる社会づくりへの一助となることを願っています。

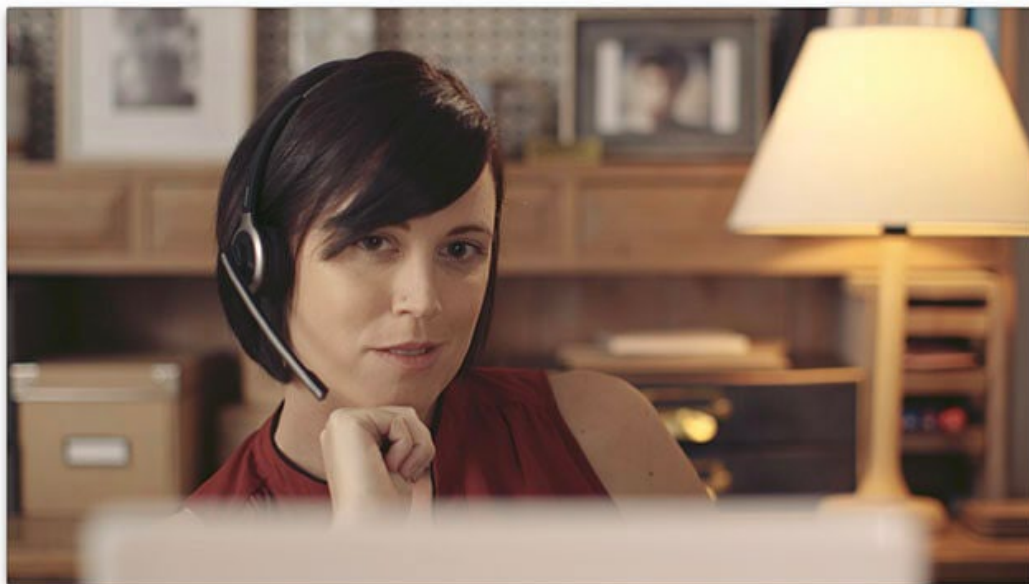
最後に、このような活動が継続できているのは、IAUD及びこれまでの活動に関わってこられたメンバー各位、ご協力頂いた多くの皆様のご尽力によるものです。改めて、厚くお礼申し上げます。

※衣のUDプロジェクトが作成した冊子「衣・着るI♡KIRU III 衣とイノベーション編」は、無料配布しております。ご希望の方は[こちら](#)をご覧ください。

※衣のUDプロジェクト2022年度の活動報告は[こちら](#)をご覧ください。



## e-ラーニングによるUD人材育成を考える 2023年度第2回IAUD定例セミナー開催のご案内



IAUD 国際デザイン賞 2022 大賞受賞「HSBC アクセシビリティハブ」

IAUDは専門家を招聘してUDに関するテーマで講演いただく「2023年度第2回IAUD定例セミナー」を、9月13日(水)17時よりオンラインで開催いたします。

今回のテーマは「e-ラーニングによるUD人材育成」とし、IAUD国際デザイン賞2022大賞を受賞した、英国大手銀行HSBCの取り組み「アクセシビリティハブ」の講演を行います。

また、IAUD国際デザイン賞審査委員会とのパネルディスカッションも実施します。

IAUD会員の方は参加無料です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



益田副審査委員長

### 「2023年度第2回IAUD定例セミナー」開催概要

- 日時: 2023年9月13日(水)17時~19時
- 開催形式: Zoomによるオンラインミーティング(情報保障として日本語字幕を配信)
- 式次第
  - ・講演: IAUD国際デザイン賞2022大賞受賞「HSBC アクセシビリティハブ」の取り組み HSBCデジタルエクスペリエンス・アクセシビリティ部 マリンサ・フェルナンド氏
  - ・パネルディスカッション: 益田文和副審査委員長(株式会社オープンハウス代表取締役)
  - ・質疑応答
- 参加費用: IAUD会員は無料  
IAUD会員以外は個人12,000円、法人120,000円(10名まで)  
※この機会に入会いただければ、会員特典として無料でご参加いただけます。なお、会費の年額は個人会員10,000円、企業会員100,000円です。
- 参加ご希望の方: ご参加いただくには、事前のお申込みが必要です。所属、役職、氏名、連絡先メールアドレスを記載したメールを9月11日(月)までにinfo@iaud.net宛へご送付ください。前日までに視聴ページの URL をご連絡します。

■参加費用のお支払い:IAUD会員以外の方は9月11日(月)15時までに下記までお振込みください。事務局での入金確認をもって受付完了となります。

【銀行名】三菱UFJ銀行

【支店名】たまプラーザ支店(支店番号629)

【口座番号】0248863(普通)

【口座名義】一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会

※振込にかかる全ての手数料は参加者ご自身でご負担ください。また、送金者と申込者は同じご氏名でお願いいたします。



## 国際ユニヴァーサルデザイン研究学院開設

### IAUD国際UD研究講座2023受講生募集のお知らせ

IAUDはこの度、より研究教育的な事業として「国際ユニヴァーサル研究学院」を設置し、2023年10月より「国際ユニヴァーサルデザイン研究講座」を開講いたします。

UDは障害者や高齢者向けのデザインだけを意味するものではありません。UDの領域は拡大進化しており、人権意識や社会の持続可能性を考慮したデザイン経営の実践こそがいまやUDの本質です。

「国際ユニヴァーサルデザイン研究講座」では、拡大進化するUDの課題を解決する思考法を身につけるためのリカレント教育やリスキングのコースを提供します。

現在、第1期(2023.10~2024.7)の受講生を募集しております。締め切りは9月29日(金)です。ぜひ、自己研修や経営幹部養成プログラムの一環として活用いただければ幸いです。

さまざまな立場の方々の積極的なご参加をお待ちしております。

※「国際ユニヴァーサルデザイン研究講座」の詳細や募集要項は[こちら](#)をご覧ください。



## 革新的なUD活動を国際的に表彰

### IAUD国際デザイン賞2023募集締切延長のご案内

IAUDは、UD社会の実現に向けて顕著な活動や提案を行なっている団体・個人を表彰する、UD対象とした世界唯一の国際的デザイン賞「IAUD国際デザイン賞2023」への応募を募集中です。

今回も、革新的なUD活動に関心のあるすべての方が応募できます。

また、現役学生および卒業後1年以内の場合は、「学生デザインチャレンジ部門」への応募となり、すべての審査料が免除されます。

この度、第1次審査応募締め切りを8月31日(木)まで延長しました。皆様の応募をお待ちしております。

※「IAUD国際デザイン賞2023」の詳細・応募は[こちら](#)をご覧ください。



IAUD 国際デザイン 2022 表彰式の様子



## 在宅で好きな時にUD資格習得

### UD検定オンライン 初級第30回及び中級第19回開催のご案内

IAUDは、「UD検定初級第30回」「UD検定中級第19回」をオンラインで開催します。

「UD検定・初級」は、UDに関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30分・50問)のセットです。問題は全て受講した講習内容から出題されます。

「UD検定中級」は、力試し問題と検定試験(70分・129問)を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に試験をお受けください。



公式テキストブック

初級、中級とも合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。

「UD検定オンライン初級第30回」の申し込み受付は**8月17日(木)**、「UD検定オンライン中級第19回」の申し込み受付は**8月16日(水)**までです。この機会にぜひ、ご利用ください。

※「UD検定オンライン初級第30回」詳細・お申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「UD検定オンライン第1回初級」開催報告のNewsletterは[こちら](#)をご覧ください。

※「UD検定オンライン中級第19回」詳細・お申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※UD検定オンライン第1回中級」開催報告のNewsletterは[こちら](#)をご覧ください。

## IAUD 2023年8月の予定

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 山の日	12	13
14 事務局 夏期休業	15 事務局 夏期休業	16 UD検定中級 第19回締切	17 UD検定初級 第30回締切	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31 14:00~ 衣のUDPJ オンラインセミナー 国際デザイン賞 2023応募締切			

次号は2023年9月上旬発行予定 特集：創立20周年記念特集⑥

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局

<http://www.iaud.net/>

e-mail:[info@iaud.net](mailto:info@iaud.net)

Instagram: [iaud.info](https://www.instagram.com/iaud.info)

LinkedIn: [international association for universal design](https://www.linkedin.com/company/international-association-for-universal-design)